

## お母さんの料理教室

二宮楓 にのみや かえで

わたしのお母さんは旅行会社で働いていました。コロナのために去年旅行会社じゃない会社で働くことになりました。旅行会社で働いていた時のお母さんは仕事で夜おそくなることもあったけれども今は早く帰ってこれるのでわたしはとってもしやすいです。なぜならお母さんのそばでごはんを作っている所をじっくり見れるからです。お母さんには、

「そんなに近くで見えていたらあぶないよ。」

と言われるぐらいくっついて見えています。でもわたしはうれしくてはなれません。

五年生になって家庭科を習うことになってからお母さんといつしよにごはんを作ることがふえました。わたしは野菜をあらったり切ったりします。わたしはまだお母さんのように野菜を上手に切ったり出来ないけれどもお母さんは、

「楓、だんだん上手になって来たね。」

とほめてくれます。わたしはうれしくてうれしくて、

「もっと切るのなあい？」

と聞いちゃいます。

お母さんとごはんをいつしよに作るのもうれしけれども、もっとうれしいことがあります。それはお母さんからのてい案でいつしよに作ったものをノートに書くことです。材料や作り方を書きます。出来あがり写真もはります。お母さんからは、「楓が大人になってお母さんになってごはんを作る時ノートをみていつしよに作ったこと思い出しながら作ってね。」

と言われました。わたしはその時お母さんにもっとも教えてもらってたくさんノートに書きたいと思いました。わたしのたから物です。

今年のおたん生日プレゼントにかわいい赤いなべを買ってもらいました。お母さんが言うには、

「せっかく楓との時間がふえたのだから二人だけの料理教室をしよう。生徒さんにはこれから長く使えるなべをあげよう。」

と。わたしは、

「本当はゲームソフトがほしかったんだけどなあ。」

と思いましたが、でもそんなお母さんが大好きです。これからもよろしくね。いつもありがとう。